

2023年4月 キューバ情勢

【概況】

1 内政

- (1) ディアスカネル大統領等の再選、就任
- (2) 5月に県知事選挙を実施予定
- (3) メーデー行事の縮小及び延期を発表

2 外交

- (1) メサ建設大臣のベトナム訪問
- (2) ペルドモ副首相の中国訪問
- (3) ディアスカネル大統領、インフレ対策にかかるラ米カリブ首脳会合にオンライン参加
- (4) カシス・スイス外務大臣のキューバ訪問
- (5) 米キューバ移民協議の開催
- (6) アブレウ・ラテンアメリカ統合連合（ALADI）のキューバ訪問
- (7) フェ・ベトナム国会議長のキューバ訪問
- (8) ラブロフ露外務大臣のキューバ訪問
- (9) バラクリシュナン・シンガポール外務大臣のキューバ訪問
- (10) ツビヤノビッチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ大統領評議会議長のキューバ訪問
- (11) モラレス・オヘダ共産党組織・幹部政策担当書記の中国、ラオス訪問

3 経済

- (1) ディーゼル燃料の不足に対する措置を発表
- (2) キューバ政府、英国高等裁判所における対キューバ債権にかかる訴訟で勝訴
- (3) 銀行及び非銀行系金融機関における米ドル現金の預け入れ再開
- (4) ディアスカネル大統領及びデ・ラ・オ・エネルギー鉱山大臣が、国内の燃料不足について説明
- (5) 燃料不足による様々な影響

【本文】

1 内政

- (1) ディアスカネル大統領等の再選、就任

19日、第10立法期人民権力全国議会が召集され、ディアスカネル大統領が大統領として再選され、就任後直ちに、首相、副首相及び閣僚の任命を行った。ディアスカネル大統領の任期は2028年までの5年間（現状の規定では、大統領は連続2期まで）。バルデス・メサ副大統領、ラソ人民権力全国議会議長も再選された。マレーロ首相、6名の副首相も留

任し、26名の閣僚のうち交代したのは外国貿易・外国投資大臣、教育大臣、高等教育大臣、財務価格大臣の4名のみ。

(2) 5月に県知事選挙を実施予定

24日、国家評議会は、5月28日に県知事選挙を実施することを発表した。県知事及び副知事は、共和国大統領の提案により、人民権力市議会議員によって選出され、任期は5年。

(3) メーデー行事の縮小及び延期を発表

25日、キューバ労働者連合（CTC）は、本年のメーデー記念式典は、燃料不足により従来のような大規模な動員はしないと発表した。さらに30日、国営メディアは、縮小されたメーデー行事を悪天候のため5月5日に延期する旨を発表した。

2 外交

(1) メサ建設大臣のベトナム訪問

3月28日～4月3日、メサ建設大臣はベトナムを訪問し、Nguyen Thanh Nghi 建設大臣、Nguyen Van Thang 運輸大臣と会談。また、ホーチミンでは、Phan Van Mai ホーチミン市人民委員長と会談し、両国の共通の関心分野での協力の必要性を確認した他、建設資材産業協会幹部との会談では、セメント、モルタル、石灰、漆喰等の製造分野における投資機会について説明し、今後数か月のうちに、同協会の代表団がキューバを訪問し、投資可能なプロジェクトを視察予定である旨述べた。

(2) ペルドモ副首相の中国訪問

3月29日～4月9日、ペルドモ副首相は中国を訪問し、張国清副総理、鄭山傑国家発展改革委員会委員長、王偉東中国開発銀行副総裁、盛鶴泰輸出信用保険公社総裁と二国間経済に関する主要議題について意見交換した。その他、金荘龍・産業情報技術大臣、羅兆輝国際開発庁長官、曾義信国家衛生委員会副主席と会談するとともに、キューバに進出している中国企業幹部と会合した。ペルドモ副首相は、今回の中国訪問で、昨年11月にディアスカネル大統領の訪中時に署名された協力計画の進捗状況を確認するとともに、一帯一路構想へのキューバの効果的な関与に関する計画を検討した。また、サイバーセキュリティを含む情報通信及びバイオテクノロジー分野等の優先度の高い分野での二国間協力の強化を目的とした文書の調印や、保健分野での合意事項の更新を行った。ペルドモ副首相にはアベリッチ情報通信大臣が同行した。

(3) ディアスカネル大統領、インフレ対策にかかるラ米カリブ首脳会合にオンライン参加

5日、ディアスカネル大統領は、メキシコの主導で開催されたインフレ対策にかかるラ米カリブ首脳会合にオンラインで参加。同地域11か国の大統領、首相、高官代表が参加した

会合では、同地域における食料価格の高騰と物価上昇に緊急に対処し、共同解決策を見出すための行動計画に合意した。ディアスカネル大統領は演説の中で、関税やその他の非関税障壁を撤廃することに加え、特に基本的な食料品や必需品とサービスの交換をを促進することの重要性を強調した。

(4) カシス・スイス外務大臣のキューバ訪問

8日～11日、キューバを公式訪問したカシス・スイス外務大臣は、10日、ロドリゲス外務大臣と会談し、二国間関係の現状を確認し、国際的・地域的な関心事について意見交換を行った他、二国間関係におけるスイスの協力の重要性や、スイス開発協力庁（SDC）がキューバのキューバにおける役割について確認した。また、11日にはバルデス・メサ副大統領と会談し、二国間の良好な関係について意見交換が行われた。また、バルデス・メサ副大統領は、スイス議会にキューバ友好グループが設立されたことに満足の意を表明し、両国の議会間関係を引き続き強化することを確認した。

(5) 米キューバ移民協議の開催

12日、ワシントンで米キューバ間移民協議が開催され、キューバからはコシオ外務次官が、米国からはクロエ国土安全保障省西半球担当副次官補が参加した。同協議では、二国間移民協定の遵守状況等が確認された。キューバ側からは米国による対キューバ制裁の継続が不法移民の誘因となることを改めて強調した他、在キューバ米国大使館における非移民系査証の手続き再開の重要性を確認した。前回協議はハバナで昨年11月に開催されていた。

(6) アブレウ・ラテンアメリカ統合連合（ALADI）のキューバ訪問

16日、ディアスカネル大統領は、アブレウ・ラテンアメリカ統合連合（ALADI）と会談し、キューバで本年10月に開催予定の「EXPOALADI2023」（ビジネスセミナー）に対するキューバの支援を表明した。

(7) フェ・ベトナム国会議長のキューバ訪問

18日～23日、中南米（アルゼンチン、ウルグアイ）訪問の一環としてキューバを訪問。19日に開催された人民権力全国議会に出席し、同日再選出されたディアスカネル大統領等や同日任命された閣僚に対して祝辞を述べ、両国の緊密な関係を強調した。20日、ディアスカネル大統領及びラウル・カストロ陸軍大将と会談し、二国間の歴史的な友好関係及びあらゆる分野での協力強化の意志を確認しました。同会談にはキューバ側からモラレス・オヘダ共産党組織幹部政策担当書記、カブリサス副首相兼外国貿易・外国投資大臣等が同席した。また、20日に実施されたマレーロ首相との会談では、マレーロ首相は物価高騰対策、新たな主体による経済活動、米の生産、国内の卸売・小売業等の分野での協力強化の可能性

を強調した一方、フエ議長はキューバに対する米の安定供給を引き続き確保することを再確認した。同会談に同席したカブリサス副首相兼外国貿易・外国投資大臣は、新たにキューバ・ベトナム政府間委員会の共同議長に就任した。21日には、マレー口首相及びフエ議長出席のもと、キューバ・ベトナム貿易投資促進フォーラムが開催され、ベトナム航空とキューバ国営航空、キューバ電力公社と Power Engineering Consulting Join Stock Company 2 社、キューバ石油公社と Petrovietnam Production and Exploration Corporation LTD 社に加えて建設企業間の4件の覚書が締結された。また、21日には、マリエル経済特区で2社のベトナム企業による新たな工場稼働を記念する式典が開催され、フエ議長及びラソ人民権力全国議会議長が出席した。その後、フエ議長一行は、サンティアゴ・デ・クーバ市を視察した。

(8) ラブロフ露外務大臣のキューバ訪問

19～20日、ラブロフ露外相は、中南米（ブラジル、ベネズエラ、ニカラグア）訪問の一環としてキューバを訪問。ラウル・カストロ陸軍大将及びディアスカネル大統領との会談では、伝統的な友好の絆に基づくロシアとキューバの良好な関係を確認するとともに、両政府による高い政治レベルでの広範な交流は、キューバがロシアとの関係に高い優先順位を置いていることの証であることが強調された。ラウル・カストロ陸軍大将は、昨年11月のディアスカネル大統領のロシア訪問に言及し、両国の関係を継続的に発展させることに関心を持っていることを再確認した。また、ディアスカネル大統領は、ロシアに対する一方的な制裁を非難し、現在の欧州の危機について、全ての人の安全と主権、そして地域の安定と安全を保証する外交ルートを通じた平和的な解決を擁護した。それに対してラブロフ露外相は、二国間の政治対話は貴重で友好的なものであり、相互の関心と利益に繋がるあらゆる分野における二国間関係を強化することを目的としたものである旨述べた。ロドリゲス外相との会談では、ロドリゲス外相は、新型コロナウイルス流行時にロシアから受けた連帯、食糧供与等に謝意を表明するとともに、現在の欧州の危機に関しては、平和的手段による外交的、建設的及び現実的な解決を提唱し続ける旨述べた。それに対してラブロフ露外相は、国際社会における緊張が高まり、西側諸国がその政策を確立することに関心を寄せている中で、露とキューバの二国間関係の重要性を確認した。

(9) バラクリシュナン・シンガポール外務大臣のキューバ訪問

19日～22日、キューバを訪問。21日、ロドリゲス外務大臣との会談では、二国間協定とその見通しについて確認した他、バイオテクノロジー、インフラ、観光分野における経済貿易関係の発展につき議論された他、本年で5回目となる両国外務省間の政治協議を通じて、二国間の対話を維持することの重要性を確認した。22日にはディアスカネル大統領と会談。ディアスカネル大統領は、両国関係の節目となる非常に重要な訪問で、今後も二国間関係や協力を進めていきたいと述べるとともに、マリエル経済特区の港湾管理・コンテナ

ターミナル、バイオテクノロジー、製薬、観光等、キューバ経済の重要な分野にシンガポール企業が参加していること、さらにそのプレゼンスが高まることを期待すること旨述べた。また、シンガポールの開発モデルは、キューバの経済・社会体制の更新の指標となること、その理由として、シンガポールが企業の発展と生活及び社会の質向上を効率的に実現したことを挙げた。それに対して、バラクリシュナン外務大臣は、キューバが60年以上にわたる困難にもかかわらず、キューバ国民の決意、愛国心、革新的能力、前進しようとする意欲に対して賞賛の意を表明した。

(10) ツビヤノビッチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ大統領評議会議長のキューバ訪問

ボスニア・ヘルツェゴビナの国家元首として初めてのキューバ訪問。25日、ツビヤノビッチ議長と会談したディアスカネル大統領は、この訪問が両国の関係を深め、より高いレベルに引き上げるきっかけになることを期待すると述べるとともに、農業、食糧生産、観光、高等教育、科学、技術、イノベーション、バイオテクノロジー等、より広範で互恵的な関係を構築できる分野が数多くあると強調した。ツビヤノビッチ議長は、キューバの友人として既存の関係をより高いレベルに引き上げることに意欲を表明し、この訪問を将来の協力のための第一歩とすべきと考える旨述べた。

(11) モラレス・オヘダ共産党組織・幹部政策担当書記の中国、ラオス訪問

23日～27日まで中国を訪問。24日会談した蔡奇中国共産党政治局常務委員は、中国はキューバへの支援を可能な限り維持し、キューバが直面している現在の困難や圧力に共感を示す意志を表明した。また、王毅外交部長（24日会談）は、社会主義への道における関係強化を提案し、両国の伝統的友情の価値を強調するとともに、キューバ国民の困難を克服する能力、帝国主義や封鎖に抵抗する能力を評価した。それに対してモラレス・オヘダ書記は、キューバ共産党と中国共産党は社会主義国家である両国の関係を推進する原動力となり得るとの確信を示し、キューバが「一つの中国」の原則を尊重することを再確認した。李強首相との会談（24日）では、李首相は、中国がキューバとの関係発展を高く評価していることを再確認し、社会主義を推進するための現実的な協力を強化することを強調した。それに対してモラレス・オヘダ書記は、キューバと中国の緊密な関係を想起し、社会主義建設の一環として、相互利益のある経済・商業・金融協力を強化する必要性に合意した。25日には第5回中国キューバ共産党間理論セミナーが開催され、両国の社会主義建設の大義において新たな勝利を収めるために、党の包括的指導力を維持・強化することが確認された。同書記は北京での3日間の滞在後、上海の歴史的、文化的史跡を訪問した。

28日～30日にはラオスを訪問し、滞在中、シースリット国家主席、シーパンドン首相及びポムヴィハーン国民議会議長と会談し、両国の政治関係の良好な状態について幅広く意見交換し、政党や経済協力において関係の更なる強化の必要性に合意した。

同書記には、ケイポ共産党中央委員会経済局長、ペレス同組織局長、ロサダ同国際局長、

アルバレス共産主義青年同盟（UJC）第一書記、フェルナンデス・シエンフエゴス県共産党第一書記等が同行した。

（12）ウォロジン・ロシア国家院（下院）議長のキューバ訪問

29日、ウォロジン・ロシア国家院議長はキューバを公式訪問し、ディアスカネル大統領と会談。ディアスカネル大統領は、今回の訪問が「近年、ロシア連邦とキューバのさまざまな分野で活発化している交流」に継続性を与えるとともに、「両国の立法機関や議会間の関係を引き続き強化する」ことに貢献することを強調した。また、ロシアに対しては、「無条件の支持」と「NATOとロシアの国境を容認できないラインに近づけることを目的に米国政府が画策した紛争を、あらゆる国際的な機会でも断固かつ体系的に非難する」旨述べた。それに対してウォロジン議長は、二国間の戦略的パートナーシップの歴史及び友情、そして両国が直面している最も困難な課題を考慮すると、議会の枠組みで、相互協力を質的に高いレベルに引き上げることは正しい旨述べた。今次訪問中、両議会間の協力のための委員会が発足した。

3 経済

（1）ディーゼル燃料の不足に対する措置を発表

2日付グランマ紙は、ハバナ県政府がディーゼル供給不足によって生じた状況に対処するための新たな措置として、車両の種類によって給油量の制限を設けると発表たと報じた。グランマ紙によると、ディーゼル燃料が供給されるのはハバナの4つのガソリンスタンドのみ。ハバナや国内の他の都市では、数ヶ月前から燃料不足の問題が続いており、ガソリンスタンドに長蛇の列ができており、キューバ国営石油公社（CUPET）によると、供給不足の原因は、タンクローリーの不足、物流運用上の困難、通常より高い需要である由。

（2）キューバ政府、英国高等裁判所における対キューバ債権にかかる訴訟で勝訴

投資会社 GRF I Ltd が、1980年代に欧州の銀行がキューバに供与した約7,200万ユーロの2件の融資をめぐる、キューバ政府及びキューバ国立銀行を相手取り起こした訴訟に関し、4日、英国高等裁判所は、同裁判所は GRF I Ltd によるキューバ政府に対する訴訟を棄却した旨公表した。ただし、キューバ国立銀行に対する訴訟に関しては、英国高等裁判所が審理する管轄権を持つとの判決を下した。これに対して、シルベイラ法務大臣は、GRF I Ltd は正当な債権者ではないため、英国の裁判所には管轄権がないと判断されたことは「キューバの勝利」である旨述べた。

（3）銀行及び非銀行系金融機関における米ドル現金の預け入れ再開

10日、キューバ中央銀行は、キューバにある銀行及び非銀行系金融機関において米ドル現金の預け入れを再開するとする6日付キューバ中央銀行決議第63/2023号を発表

した。キューバでは2021年6月から、銀行及び非銀行系金融機関が、米ドルを現金で受け入れることを禁止していた。

(4) ディアスカネル大統領及びデ・ラ・オ・エネルギー鉱山大臣が、国内の燃料不足について説明

14日、ディアスカネル大統領は、国内で発生している燃料不足問題に関して、キューバとの間で燃料供給にかかる協定を締結している国々が、複雑なエネルギー状況にあり、協定を履行することができず、その結果、キューバが必要とする500~600トン(1日あたり)の燃料が、現時点では400トン以下しか供給されていない旨説明した。また、夏場の停電を避けるため、現在、多くの火力発電所で修理が行われており、代わりにディーゼルを燃料とする分散型発電所に国内供給を頼っているため、ディーゼルが不足しているとした。

17日には、デ・ラ・オ・エネルギー鉱山大臣が国営メディアで、燃料供給元がキューバに対する約束を履行できていないことと、米国による対キューバ封鎖を理由に、燃料輸送のための船舶を確保するのも、融資を受けるのも、燃料売買契約における通常の要件を満たすのも非常に困難な状況になっており、状況は常に悪化することを念頭に置く必要があると説明。燃料供給が「ゼロ」になることを避け、重要なサービスを保証できるよう、燃料供給4月及び5月の間制限する決定をしたと発表した。

(5) 燃料不足による様々な影響

23日、ハバナ市内の劇場で予定されていた国立交響楽団のコンサートが「燃料不足のため」中止されることが発表された他、24日、国内各地の大学4校は、燃料不足で交通手段がなく、大学に通学できない生徒が多数に上るため、少なくとも4月中の休校を決定したほか、オンライン授業に切り替えたり、少なくとも4月中は休校を決定した。このような状況下で、26日、国内のガソリンスタンドを運営する国営輸出入公社CIMEXは、ガソリンと軽油の入手に関するキューバの複雑な状況を認め、長い待ち時間による国民の不満を軽減するためとして、従業員の勤務シフト体制の整備、(転売を避けるため)ポリタンク等の容器への販売の禁止、給油量の制限、ガソリンスタンドへの警官の配置等対策を発表した。

家庭用プロパンガスにも不足が生じており、サンティアゴ・デ・クーバ県では4月初旬から14日間中断していた液化ガスの流通が26日から開始されることが発表された。